

〔別紙⑤〕

12月15日(木) 同和学習 感想

結婚の時に相手を調べるということは、結婚を「手段」や「目的」としてあつまっているのだと思います。人を物のようにあつかったり、家や生まれを見るのではなく、内面を見るべきです。「どんな人と結婚するのが心配」という気持ちは分からなくもないのですが、身元調査をするのではなく、直接相手と話をすべきだと思います。

1人や2人で考え込むよりも、周りに相談した方が絶対に良いと思いました。部落差別に限らず、小さな悩みでも同じだと思います。気が楽になるだけでなく、いろいろな視点から考えることができ、考えの偏りが少なくなると思います。差別を受けた人だけでなく、周りの人がどう行動するかが大切だとも思いました。

差別される側も差別した側も、どちらも苦しい思いをしている。差別する側は誰も得をしない、むしろ心が傷つくという損をしているのに、未だに差別が残り続けていることを疑問に思った。

これから先、もしかしたら理不尽なことに出会うかも知れないが、その時その時でどうすべきかを考え、しっかり対応していきたいと思った。同和問題に限らず、結婚については、このジェンダーレスな時代でも同性婚は認められていないので、これから先は認められるようになってほしいと思った。

これからの生活で同和問題に限らずいろいろな差別に出会うかもしれないし、されるかもしれない。その時、私は胸を張って「差別はだめだ」と言える人であり続けたいし、そうじゃないとだめだと思います。そのために、差別に気付いたときに気付かないふりをせずに向き合いたいです。私は、人のために本気で何か協力したという経験がないので、そういう自分を変えたいです。

生まれた地域や住んでいる地域で、結婚を反対されるのは信じられないし許せないし、怖い。この授業を受けていなければ、身元調査が人権侵害になるということに気付いていなかった。学べて良かった。

信頼できて相談できる友は、大切なのだと思いました。反対している親の前で、ただただ反抗すると絶対に伝わらないと思うし、親子関係も嫌な感じになってしまいます。生徒会人権学習会でも出てきたのですが、「言い方によって伝わり方は変わる」と思います。理由や視点を変えながら説明すると、きっと分かってくれると思いました。私も学んでいって差別に気付ける人になりたいと思いました。

親も、差別で子を傷つけてしまうと関係も悪くなり、子も親を頼れなくなり、誰も幸せになれません。生まれてきた子も、祖父や祖母に会いたくても会えなくなるかもしれません。差別心無くすことは難しいと思います。でも、差別心は自分の中にもあるということをおぼろげに忘れることなく毎日を過ごしたいです。